

鈴正 Gallery Gomaru 50

2017年撮影



—記念館建設への思い—

創業50周年を迎える、これまで私が実際に歩んでまいりました歴史を保存し、そして皆様にもご覧になって頂きたいという思いから記念館の建設をいたしました。

—建物概要—

場 所・・・株式会社 鈴正 社屋 敷地内

用途地域・・・第一種住居地域

防火地域・・・防火指定なし

建物規模・・・地上3階建て

構造形式・・・木造吹抜耐震構造

基礎形式・・・鉄筋コンクリート ベタ基礎耐震構造

最高高さ・・・9.822m

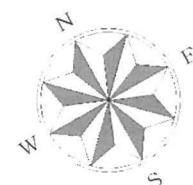
延床面積・・・124.7m²/37.65坪

外 壁・・・防音・耐震構造 鉄板サイディング張り

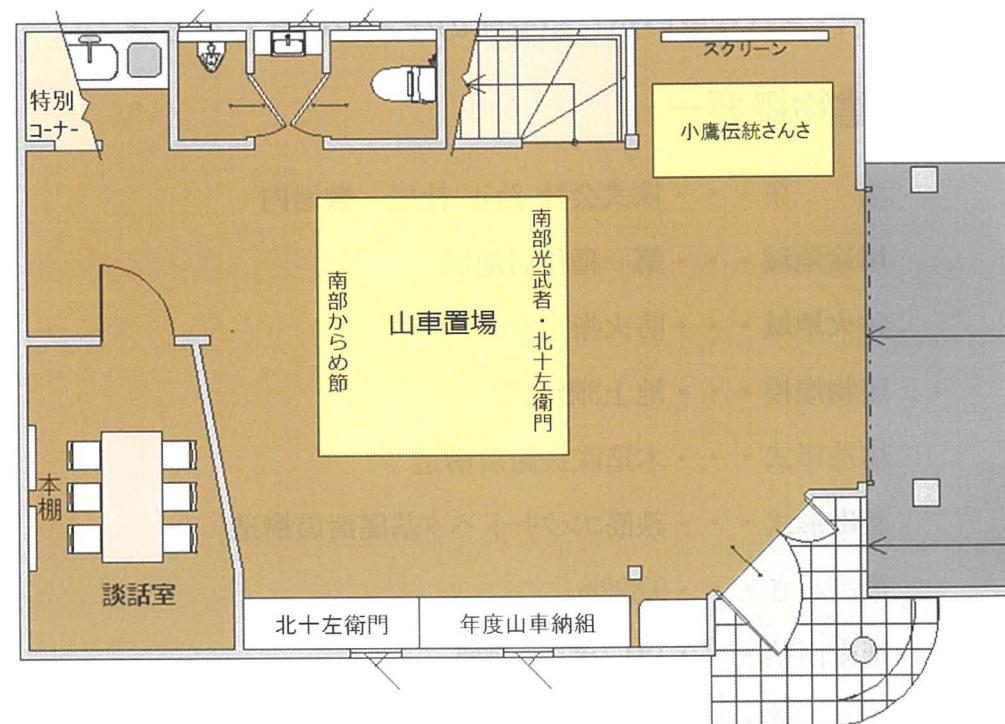
一平面図一

中2F

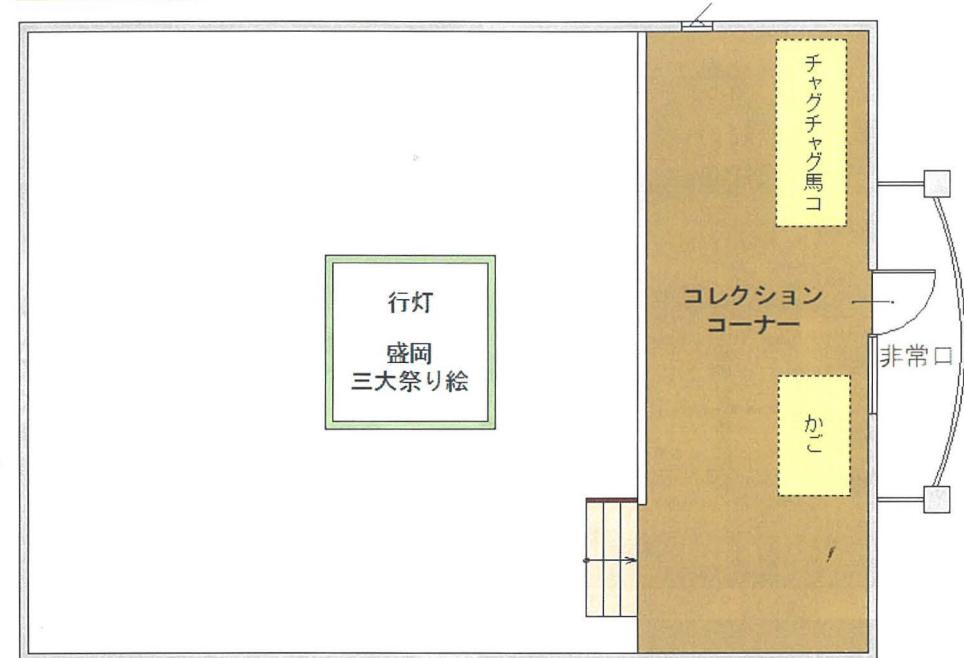
八幡宮下り
パレード
三二山車展示



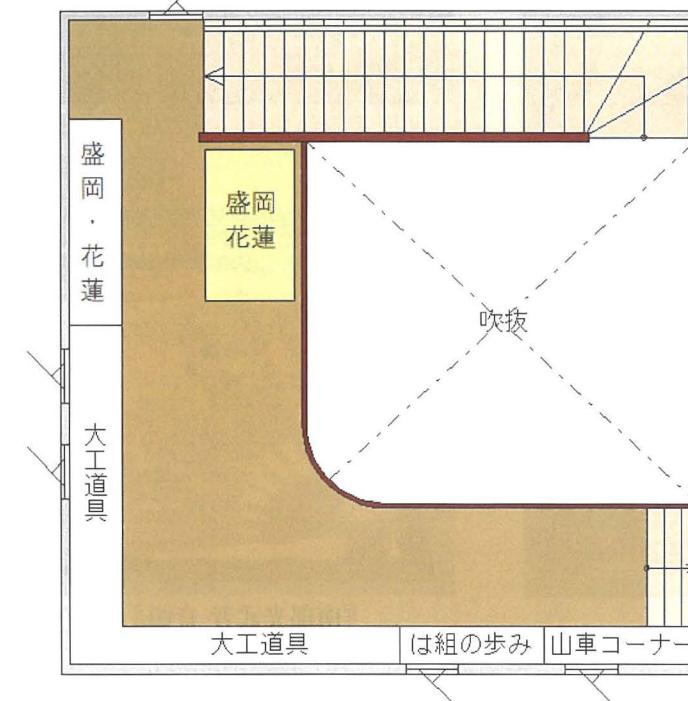
1F



3F



2F



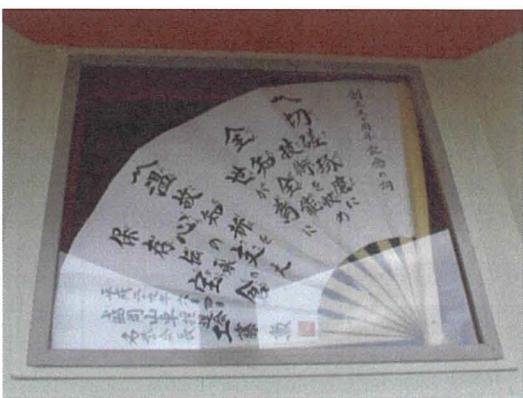
一意匠・展示品



経済的大波、小波を曲がりなりにも乗り越え今まで事業を継続してこられたのは、皆様の支えがあってのこととございます。これからも細く長く事業を継続していくように屋根には波返しのシンボルをつけました。



50周年の節目ということで、5個の城窓をつけました。



『祝い音頭』

作詞：盛岡山車推進会 名誉会長 工藤 熱
入口の大きな扇子には、表に祝い音頭、裏に南部光武者の音頭を提示しております。



『南部光武者 音頭』

作詞：戸塚 宏 (時不知)
入口の大きな扇子には、表に祝い音頭、裏に南部光武者の音頭を提示しております。



其の年の盛岡山車奉納組を紹介しています。



ゆっくりと楽しみながらのぼってほしいという気持ちで、城下町の祭りを思わせるような階段手摺を造りました。



盛岡市指定無形民俗文化財に指定されている地元の伝統芸能「小鷹さんさ踊り」です。



臨時展示コーナー



『北十左エ門』



『南部からめ踊』

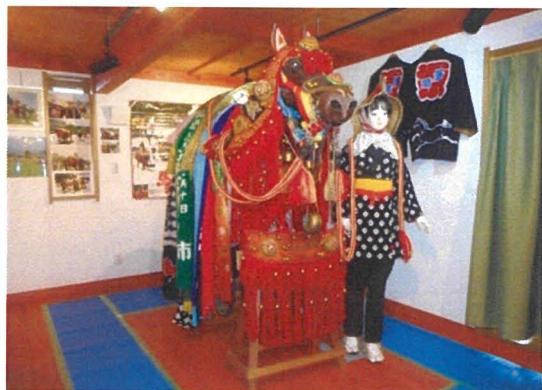
平成12年に盛岡八幡宮に奉納した山車でございます。
山車名は風流 南部光武者、見返りはからめ踊。



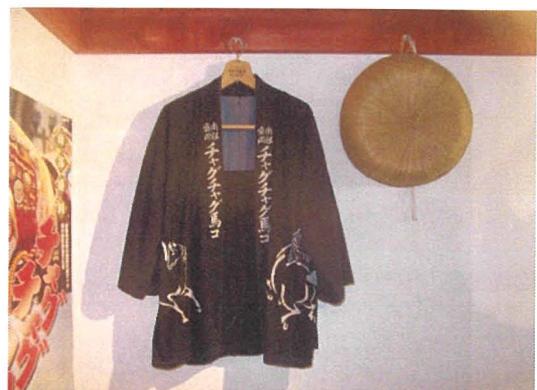
毎年9月15日に行われる盛岡八幡宮下りのパレードの様子をミニ山車で再現しました。



吹抜けに配置した大きな行灯には、盛岡
三大祭り絵を描きたいと思っております。



盛岡チャグチャグ馬っ子の伝統衣装です。パレードには10年間参加しました。



200年の歴史をもつ地元消防団にまつわる品を展示しています。
私は30代目の分団長を務めました。



2022年(令和4年)3月、盛岡花蓮友好協会設立。
頂いた記念品を展示しております。



42才の歳祝いの時に、市内を大名行列した際に乗った籠です。
社員の手づくりであります。



各消防団本部、分団の記念誌です。



私が弟子入りをしてから60年。
その時からの大工道具であります。



聖徳太子は中国から「さしがね」を持ち
帰り、大工に広めたと云われています。
私共は、太子講という講義を開き、大工
の神様としてお祀りしています。

悲運の武将 山車に託す

私が盛岡市消防団第一分団の分団長をしていた時、平成12年には組の山車として仙北1丁目・2丁目に縁のある北十左工門の事を演目として出せないかと考えました。

北十左エ門は、1600年関ヶ原の戦いでは伊達正宗の策謀で起こった和賀・稗貫地方の百姓一揆を他の部隊と協力して撃退し、1602年には白根山で発見された金山の奉行に任せられるなど、南部藩にとってなくてはならない重臣でした。ちなみに金山が発見された経緯は、お百姓さんが長芋を掘っているときに砂金が出たことがきっかけとの事です。

1614年大阪の陣で南部藩が徳川方についたのに対し、十左工門は豊臣方につき、敗戦後、盛岡に送られ罪人として処刑されたというのが定説です。

平成12年頃はその定説が信じられていたものですから、反対する方も多く、どうしたものかと思っておりましたが、中央公民館の高橋学芸員にお話を伺う機会があり、南部藩は徳川方につき、自分は豊臣方につくことで、どちらが勝っても南部家を存続させようとの策を十左エ門が利直公に進言した可能性があるとの事でした。

戦国時代であり、藩が生き残る為には当たり前の考え方だったのではと思いますし、十左工門が処刑された後、十左工門の話をすると祟りがあると言われたそうですが、これも今でいう箝口令のようなものの様な気がします。

三戸のあるお寺に、十左工門が生前用意したと思われる戒名を書いた位牌がありましたが、再び戻らない決意の表れであり、徳川方につく主家が勝利してほしいとの願いからではなかったのではないでしょうか。

これが本当なら十左工門はある意味南部を救った人物であると思い、その事を高橋学芸員から地域の皆様にお話し頂き、皆様からご理解を頂いたうえで南部光武者を演目として出させて頂きました。

ここに飾ってある山車はその時の演目をもとに復元したものであります。

